

山上の説教から学ぶ (37) : 「狭い門から入れ」の意味

メッセージノート (2021. 10. 31)

- ・ フランスの文学者、アンドレ・ジッド『狭き門』
- ・ 入学試験などで「狭き門」などと使われる
- ・ 遠藤周作と三浦綾子：信仰の「弱虫」と「強虫」

マタイ 7:13-14 ¹³ 狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは行って行く者が多い。 ¹⁴ 命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。

「狭い門から入りなさい」の意味

■ 選択を迫る

- ・ 「はいれ」：不定過去形という自制が使われていて、その意味は、深く考えた上で、断固たる決断をもって、「入る」ということをイエスは命じている。
- ・ それは、誰かがするのではなく、私たち一人一人が下す決断である。モーセ、ヨシュア、エレミヤらもしている。
申命記 30:19 さあ、天と地が証人です。どちらを選びますか。生きることですか、それとも死ぬことですか。祝福ですか、のろいですか。もちろん、あなたのためにも子孫のためにも、生きるほうを選ぶべきです。
ヨシュア 24:15 もし主に仕えたくないというならば、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。
エレミヤ 21:8 この民にそう知らせてやるのだ。そう主は告げます。生きるか死ぬかの、どちらかを選ぶ。
- ・ もし意図的な決断をしていなければ、狭い門から入ることはない。広い門、道を進んでいることになる。
- ・ 広い道とは、この世では人気があり、魅力的と思われている道である。注意していなければ、普通はこちらを歩んでいる。しかし、それは滅びに向かう道であり、クリスチャンが歩む道ではない。全く実りがない。

■ なぜ「狭い門」なのか？

- ・ イエスは、弟子たちにどうしてこんなことを言ったのだろうか？
- ・ 「狭い門」「細い道」とは、何を表しているのか？探すのに難しく、進むのに困難ではあるが、耐え忍んで歩んでいくなら、最後はそこに救いがあると言っているのか？それでは、忍耐と努力の勧めになってしまう。
- ・ 聖書の人生観は、人生には、嵐のような厳しい試練が必ず襲ってくるものである（山上の説教の最後；マタイ 7:25, 27）という前提がある。この前提に基づいて、人生設計を考えよと教える。

■ 「狭い門」「細い道」とは？

- ・ いろいろなものを持っていては、通り抜けられない門である。これまでの教えから、それは、一言で言えば、謙虚でなければくぐることのできない狭い門であることがわかる。それは「心の貧しさ」の自覚。
- ・ 千利休の茶室：細川ガラシャ、Saint Luke
- ・ あなたは、これまでどんなことを通して謙虚さを学ばされてきたか？取り除かれた（引き剥がされた）ものはなんだったか？この手放すというのは、一度ではなく、日々行われる決断である。

マタイ 16:24-26²⁴ それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。²⁵ 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。²⁶ たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

- ・ 「それから」：ペテロが示した当時一般的だった誤ったメシヤ像（広い門）をイエスが否定した後、という意味。
- ・ あなたが、日々意識的に行かないように心掛けていることは何か？狭い門ではなく、大きい門へ行こうとする傾向についてどこまで意識を働かせているか？あなたが陥りやすい誘惑に対してどんな方策を講じているか？
- ・ なぜイエスは、ここまで用心せよと命じているのか？永遠の命を失う危険性があるというのか？

1コリント 3:10-15¹⁰ 神から賜った恵みによって、わたしは熟練した建築師のように、土台をすえた。そして他の人がその上に家を建てるのである。しかし、どういうふう建てるか、それぞれ気をつけるがよい。・・・¹⁴ もしある人の建てた仕事そのまま残れば、その人は報酬を受けるが、¹⁵ その仕事が焼けてしまえば、損失を被るであろう。しかし彼自身は、火の中をくぐってきた者のようにではあるが、救われるであろう。

■ 「狭い門」「細い道」のもう一つの意味（セキュリティ症候群：思わずらい、罪責感）

- ・ 神は私たちが不要な重荷を取り除き、本来生きるべき使命に集中できるようにして下さる。
- マタイ 11:28-30²⁸ 全て重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。²⁹ わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。³⁰ わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。
- ・ 一人で歩むのではなく、聖霊様が伴って歩いてくださる道、魂の満たしを経験する人生である。
 - ・ 人との比較、この世の中の流行の道ではなく、本来あるべき「私」としての成長を促す歩み方である。
 - ・ 短くはかないこの地上での人生をどのように生きたいのか？天国には入らせていただけるだけの人生か？それとも、充実した永遠に残る意味ある地上の人生か？

■ 「狭い門」のイメージ

詩篇 1:1-3¹ いかにかに幸いなことか 神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず 傲慢な者と共に座らず² 主の教えを愛しその教えを昼も夜も口ずさむ人。³ その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

- ・ なぜ、否定的、あるいは、消去法的なところから入るのか？なぜなら、私たちは真空状態で生きているのではなく、常に誘惑との緊張関係の中で、どちらの道を選ぶのかの意識的決断を迫られているから。
- ・ その緊張状態の中で、詩人は、主を見上げることを意識的に選択し、主との絶え間ない交わりの中で一日の働きを遂行していこうと努める姿勢がこの詩篇では強調されている。
- ・ そして、この生き方は、主の用意された季節になると、大いなる収穫の時を迎えるのだ。

■ まとめ

- ・ あなたが謙虚さを学ぶのに、神はこれまでどんな狭い門を通らせられたか？
- ・ 今、主は、あなたにどんな決断を下すべきだと言われていると思うか？
- ・ あなたの人生の旅路を共に歩まれる主は、これまでどんな恵みを提供してこられたか？
- ・ 今、主は、あなたを引き込もうとするこの世の誘惑に対して、どんな励ましの言葉をかけておられるか？